令和 3 年度　東京都内湾水生生物調査 2 月成魚調査速報

●実施状況

令和 4 年 2 月 7 日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、満潮が 8 時 29 分、干潮が 15 時 01 分であった（気象庁のデータ）。調査当日の透明度は 3.3～8.8m であった。また、全地点で赤潮や貧酸素状態は確認されなかった。

全地点でハタタテヌメリが確認されたほか、ゴンズイが本調査において初めて確認された（St.35、St.22）。また、オウギゴカイやトリガイ、スナヒトデ等多種多様な生物も各地点にて確認された。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:50-10:50		11:08-12:00		12:03-12:50		12:50-13:50	
水深（m）	25.0		11.8		14.2		7.4	
天候	快晴		快晴		快晴		快晴	
気温（℃）	7.6		8.9		9.5		11.9	
風向/風速(m/sec)	N/6.2		N/5.4		NNW/4.3		NNW/3.4	
波浪(m)	0.4		0.3		0.1		0.1	
透明度(m)	8.8		5.5		6.0		3.3	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	9.4	10.9	9.1	10.0	9.1	10.0	10.0	9.8
塩分（－）	32.6	33.1	31.5	32.9	31.7	32.8	32.5	32.5
DO(mg/L)	9.6	8.2	9.3	8.9	9.5	8.5	8.7	8.7
DO飽和度(%)	103.4	90.9	98.5	97.0	100.9	93.4	94.8	94.1
pH（－）	8.2	8.2	8.1	8.1	8.2	8.1	8.1	8.1
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層：上層（0m）・下層（海底面上 1m）

●主な出現種等　（速報なので、種名等は未確定です。）

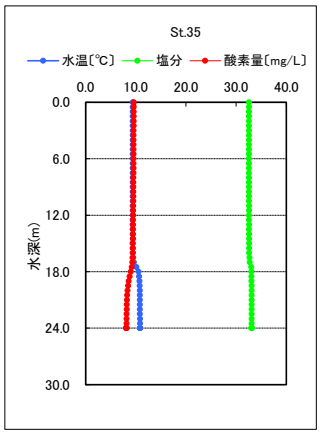
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタタテヌメリ(+) テンジクダイ(+) コモチジャコ(r) ゴンズイ(r)	ハタタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) マゴチ(r)	ハタタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) ゴンズイ(r)	アカエイ(r) ハタタテヌメリ(r) マハゼ(r) マゴチ(r)
魚類以外（目立った種）	オウギゴカイ(m) シャコ(c) ムラサキハナギンチャク(c)	オウギゴカイ(m) スナヒトデ(+) エビジャコ属(+)	オウギゴカイ(m) クシノハクモヒトデ(c) トリガイ(+)	サルボウ(+) トリガイ(+) コロモガイ(r)
備考	上記の他、ケブカエンコウガニ、スナヒトデ等が確認された。	上記の他、ダンゴイカ科、サメハダヘイケガニ、ホンビノスガイ等が確認された。	上記の他、エビジャコ属、スナヒトデ、サメハダヘイケガニ、サルエビ等が確認された。	上記の他、イッカククモガニ、サメハダヘイケガニ、ヤドカリ類等が確認された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置

水質状況



地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料

二対のひげを持つ、ナマズの仲間(目)。目立つ黄色い縞が特徴。夏場の湾央や外湾では普通に見られるが、湾奥ではあまり見られない。岩礁域や藻場に生息し、夜行性であるが、幼魚の頃はいわゆる「ゴンズイ玉」を作り、群れで日中を過ごす。背びれと胸びれには強い毒のトゲがあるため、大変危険な魚でもある。

主な出現種　※写真のスケール１目盛：1mm

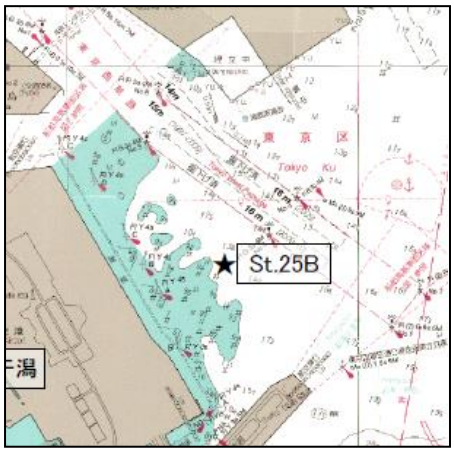
全長 14 ㎝程になる。夏は湾央部のやや深い場所に生息し、秋から春にかけて湾奥部にも分布する。本調査の主要種の１つである。東京湾ではメゴチと呼ばれる。

比較的深所の泥底から砂泥底に生息するハゼの仲間。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾奥に分布する。産卵期は春。今回抱卵した個体が採取された。

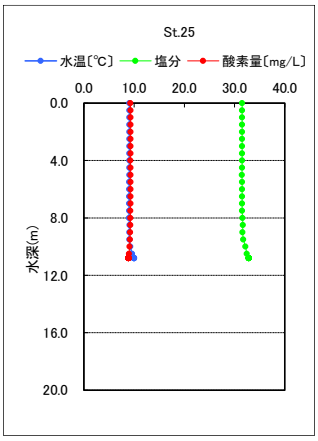
体長 15cm 程になる。内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。肉食性で、魚類、甲殻類、多毛類等を捕らえて食べる。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況

西側には東京国際空港が見える。

採取試料

ほぼ球形で、殻は薄く脆い。長い足が鳥の嘴に見えることが名前の由来とされる。内湾の砂泥底に生息し、湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生により、ほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は翌年春に 60mm 程に成長し、漁獲される。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

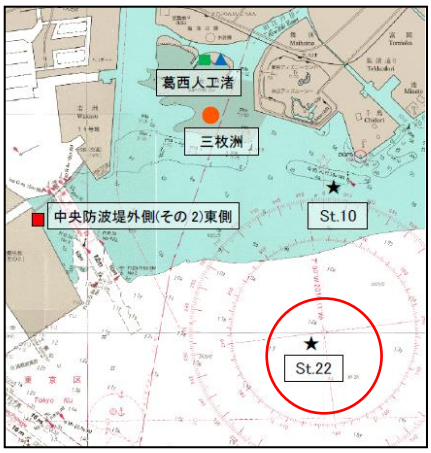
褐色の帯が入る平べったい体が特徴。内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息し、底生生物や小型の魚類を食べる。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深所へと移動する。本個体は体長 37.5cm であった。

丸みを帯びた胴と丸い耳のようなひれを持つ小型のイカ類。活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。

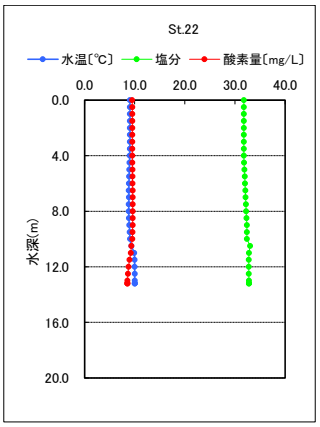
体長 20 cm以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底～砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通にみられる。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料

東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は 7～10 月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

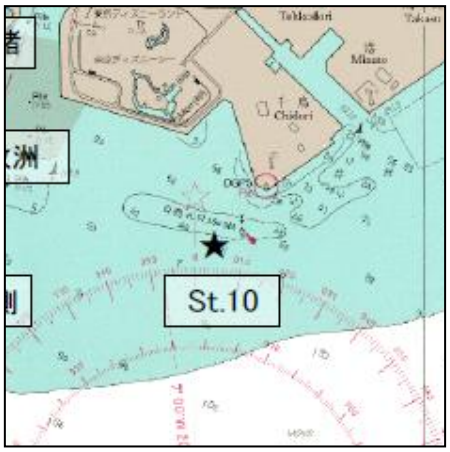
内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

東京湾で最も普通にみられる小型のクルマエビの仲間。内湾の砂底～砂泥底に生息する。日中は砂に潜っており、夜間に活動する。7～8 月が産卵盛期。

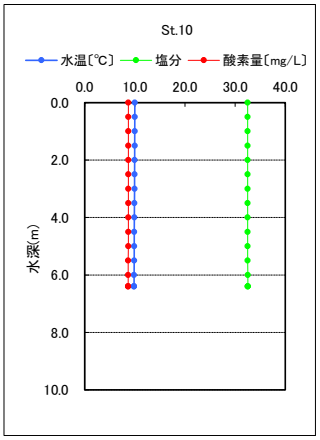
砂底に生息する。甲幅 3cm 程で、小さい二対の脚がカギ状になっており、二枚貝の貝殻を背負う。ヘイケガニの名は甲羅の模様が怒りの表情に見え、壇ノ浦の海戦で滅亡した平家の亡霊が蟹と化したとの伝説に由来する。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

東京湾で最も普通にみられるエイの仲間。胸びれで海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類などを食べる。尾部に毒針を持ち、刺されると危険。

東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。

※解説は St. 25 を参照。